

文化

沈黙に向き合う
沖繩戦聞き取り47年

(89)

石原 昌家

「これが沖繩戦だ」と 展示の確認を取り合い、往
いう二日間の史料が、本 民犠牲の諸相」のコーナー
道で前回 紹介した『國 でのコピー展示にこぎつけ
士決戦教令』の二巻 だ。
第十四巻)だった。その存 大阪の戦争資料館「P
在を知ったのは新資料館 入おさか」から講演を依
館直前だったので、新編平 類された際に、資料館改
和祈念資料館の監修委員会 ン事件は全国で展開してい
長代理の宮城悦二郎氏のも る反日資料館攻撃の一端で
と、急ぎよ電話で全委員と あることが分かったこと



1945年6月15日に出された久米島部隊
指揮官(鹿山兵衛長)の「運」で、米軍
の宣伝ビラ所持者は銃殺すること左
記した内容(左の囲んだ部分)

「これが沖繩戦だ」と 展示の確認を取り合い、往
いう二日間の史料が、本 民犠牲の諸相」のコーナー
道で前回 紹介した『國 でのコピー展示にこぎつけ
士決戦教令』の二巻 だ。
第十四巻)だった。その存 大阪の戦争資料館「P
在を知ったのは新資料館 入おさか」から講演を依
館直前だったので、新編平 類された際に、資料館改
和祈念資料館の監修委員会 ン事件は全国で展開してい
長代理の宮城悦二郎氏のも る反日資料館攻撃の一端で
と、急ぎよ電話で全委員と あることが分かったこと

平和祈念資料館問題 ②

「米ビラ私有は銃殺」

日本軍、相次ぐ住民虐殺

ついで、本連載の第84回(6
月15日付)に書いた。
その講演後、面識のない
聴衆の二女性が大分県研究
室に司馬遼太郎著『街道を
ゆく6、沖繩・先島への
道』(朝日文庫)を讀むよ
うにと、数カ月後、送付し
てくれた。私が講演で話し
たような内容が書いてある
とのことだった。
すぐに手にすることはな
が、やがて、押し殺したよ

司馬氏は「軍隊は住民を守
らない、軍隊は軍隊そのも
のを守る存在だ」と語者を
めぐらした。
そして旅した沖繩で沖繩
戦体験者との会話から「も
し米軍が沖繩に来ず、関東
地方にきて、同様に、大分
口が稠密なだけにそれ以上
の凄惨な事態がおこったに
ちがいない。住民をスパイ
扱いしたり村落到小部隊が
たて籠って、そのために住
民を全滅したり、それを
嫌がって逃げる住民に通報
とてろが、出身大学の

皇軍の本性

皇軍の沖繩住民スパイ
視殺行爲は、沖繩人差別
蔑視が根底にあったとして
も、日本各地に米軍が上陸
したとき、沖繩戦とまった
同じような惨状が発生し
ていたはずだ。きつぱり
と締めくくった。講演前に
持った教令を展覧した。牛島
司令官は「国土決戦教令」
通りに戦闘を指揮したとい
うことが、史料で確認でき
るのだ。
この記録によると、米軍
の斥候兵が久米島へ上陸し
て、島人を拉致したという
ことで、山中に潜む日本軍
の鹿山部隊は、住民を通して
日本軍の動向を探られてい
ると判断し、「スパイとして
銃殺の達し」を発令した
ようだ。6月26日については
米軍が久米島上陸し、島
の緊張は極度に高まり、警
防団本部も解散した。28日
には米軍の久米島占領を意
味する米国旗がたてられた
ので、住民は山中に潜む日
本軍鹿山部隊と米軍の板挟み
状態に置かれた。
6月27日、安里正二郎郵
便局長の虐殺が始まり、29
日に北原住民9人虐殺、8
月18日仲村通明一家3人
虐殺、8月20日朝鮮人の谷
山昇一家(妻は久志村の人)
7人虐殺が相次いだ。すべ
ては、6月15日の「運」に
始まった。
(次回は9月後半掲載)

かつたが、ある日、拾い読
みしたら『国土決戦教令』
を讀んだ時に運動する一文
が目にとまり、息をのんだ
息をした。
『街道をゆく6、沖繩・先
島への道』(41頁)

うな小さな声で「かれは温
厚な表情の人で、決してサ
ディストではなかったま
うが目にとまり、息をのんだ
息をした。
『街道をゆく6、沖繩・先
島への道』(41頁)

者として殺したりするよう
な事態が、無数におこった
のではないか(同書43
44頁)と、戦争被害の全体
像を俯瞰していた。特殊沖
繩だけに発生したとは限ら
ないという高い見識を著書
で広めていたのである。

先讀にあたる司馬氏は、そ
の7年前の1974年段階
ですでに週刊朝日で公表
していた内容だったこと
が、今回の執筆のために再
読して分かった。私は大先
著の重要な指摘を見落として
きていたのだ。

『久米島の戦争』(徳田
球孝子、鳥島由幸編、な
んよう文庫、2010年)
の年表によると、この運
が出た前後の記録で発令の
経緯が推察できる。
「6・13北原比嘉島に
侵入、比嘉島を拉致して行
く」(6・14北原事件にて
各字へ手配の上、警戒をな
す。8時ごろ山隊長より屋
宣巡查と共に打ち合わせの
ため呼び出したより出張」
「6・15山の隊長より拉致
事件に対し西村長、警防団
長あて注意書来る。各部落
に対し山より達し並びに注
意書来る」

「6・15山の隊長より拉致
事件に対し西村長、警防団
長あて注意書来る。各部落
に対し山より達し並びに注
意書来る」
この記録によると、米軍
の斥候兵が久米島へ上陸し
て、島人を拉致したという
ことで、山中に潜む日本軍
の鹿山部隊は、住民を通して
日本軍の動向を探られてい
ると判断し、「スパイとして
銃殺の達し」を発令した
ようだ。6月26日については
米軍が久米島上陸し、島
の緊張は極度に高まり、警
防団本部も解散した。28日
には米軍の久米島占領を意
味する米国旗がたてられた
ので、住民は山中に潜む日
本軍鹿山部隊と米軍の板挟み
状態に置かれた。
6月27日、安里正二郎郵
便局長の虐殺が始まり、29
日に北原住民9人虐殺、8
月18日仲村通明一家3人
虐殺、8月20日朝鮮人の谷
山昇一家(妻は久志村の人)
7人虐殺が相次いだ。すべ
ては、6月15日の「運」に
始まった。
(次回は9月後半掲載)

字徒出陣の司馬遼太郎氏
は、敵が関東地方の沿岸に
上陸したとき出陣するた
め、栃木県佐野在連隊の戦
車隊に配属されていた。司
馬氏は大本営から派遣され
た人の説明があったとおり、
日軍の戦闘を聞いた。敵

まに大本営陸軍部の国
土決戦教令で、敵が佐野を
盾にして攻めてきたら、敵
兵隊を二階建てのカラス
の戦闘守則を、それを作成
した一員である大本営の
戦争終結記者講演を依頼さ
れ、初めて日本本土で沖繩
戦の惨状について話してき

た。皇軍の沖繩住民スパイ
視殺行爲は、沖繩人差別
蔑視が根底にあったとして
も、日本各地に米軍が上陸
したとき、沖繩戦とまった
同じような惨状が発生し
ていたはずだ。きつぱり
と締めくくった。講演前に
持った教令を展覧した。牛島
司令官は「国土決戦教令」
通りに戦闘を指揮したとい
うことが、史料で確認でき
るのだ。
この記録によると、米軍
の斥候兵が久米島へ上陸し
て、島人を拉致したという
ことで、山中に潜む日本軍
の鹿山部隊は、住民を通して
日本軍の動向を探られてい
ると判断し、「スパイとして
銃殺の達し」を発令した
ようだ。6月26日については
米軍が久米島上陸し、島
の緊張は極度に高まり、警
防団本部も解散した。28日
には米軍の久米島占領を意
味する米国旗がたてられた
ので、住民は山中に潜む日
本軍鹿山部隊と米軍の板挟み
状態に置かれた。
6月27日、安里正二郎郵
便局長の虐殺が始まり、29
日に北原住民9人虐殺、8
月18日仲村通明一家3人
虐殺、8月20日朝鮮人の谷
山昇一家(妻は久志村の人)
7人虐殺が相次いだ。すべ
ては、6月15日の「運」に
始まった。
(次回は9月後半掲載)

本土でも惨状に
私は、1981年8月15
日、大分県の教員組合から
から厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が

32軍牛島軍司令部は、
45年5月30日、首里決戦を
避けて堅固な首里軍司令部
から厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が

32軍牛島軍司令部は、
45年5月30日、首里決戦を
避けて堅固な首里軍司令部
から厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が
ら厚文仁(西端)へ撤退し
た。前軍司令部の函則が